

成果指標				
成果指標	下水道使用料金収入済額÷調定額＝徴収率(現年度)			
指標設定の考え方	前年度徴収率と比較し、向上させることで安定した事業執行を図ることができる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目 標	100	100	100	100
実 績	99.62	99.56	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	特定環境保全公共下水道事業に伴う一般管理費であるため、引き続き必要と思われる。また、未納者に対する納付督促に引き続き努める。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	高い使用料徴収率を維持するためにも、引き続き事業を水道課と協力して推進する。ただ経費の削減については、継続して検討する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	使用料について、見直しを検討する。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。